

# 人材育成、Uターン促進へ 経営者と教員タッグ

## 福井 同友会が交流事業開催

福井経済同友会は10日、県内企業の経営者と若手教員の交流会を福井市の県協協ビルで初めて開いた。産業界が求める人材の育成やUターン就職の促進に向け、意見を交わした。



キャリア教育の推進などに向け意見を交わす若手教員と経営者  
=10日、福井市の県協協ビル

してもらおうと、同友会の人づくり委員会が企画。20、30代を中心とした県内高校の教員や同友会の会員ら約40人が参加し、3班に分かれて議論した。

教員は「社会に出ることを前向きに考える生徒が少ない」などと、教育現場が抱える課題を列挙。それらの解決に向け、どのような取り組みが有意欲や熱意を重視する「な

効か、同友会はどういった協力ができるかを話し合った。

「現状のキャリア教育は進路指導だけになってしまっている」という問題提起に対しては「課題解決能力を養うような取り組みができないか」といった意見が出された。また、経営者は「何を勉強してきたかよりは、働く意欲や熱意を重視する」など、求める人物像を説明していた。

同友会は今後も交流を図り、教員のニーズに合わせた取り組みを展開していく。この日の意見交換では、今後の活動として、教員自身が企業見学や就業体験をした上で、生徒に業務内容ややりがいを伝えてもらう企画が候補に挙がった。奥越明成高の錦織歩教諭は「教員が実体験を話すことで、生徒が進路を考えた時働く意欲を持った」と意欲を見せた。(岩崎大樹)